

部会名	相談・くらしの部会	報告回	令和4年度第3回全体会
委員 氏名		氏名	選出母体及び役職等
	1	◎原 郷史	地域生活支援センターふらっと センター長
	2	○松林 宏	J P S 訪問介護ステーション 管理者
	3	吉田 真介	地域生活支援センタープラザ 施設長
	4	高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長
	5	玉上 博康	ワークショップさかえ 施設長
	6	椛島 剛之	障害当事者
	7	大原 博文	府中市パーキンソン病友の会 会長
	8	西浦 智恵	知的障害者相談員
	9	荒畑 正子	府中市精神障害者を守る家族会 理事
	10	田中 研二	府中市社会福祉協議会 地域福祉部地域活動推進課 長補佐兼権利擁護課長補佐
※部会長は◎、副部会長は○			
現状	<p>○昨年度内容を検討してきた障害のある方のための防災ハンドブックが完成し配布が始まった。</p> <p>○第7期自立支援協議会において整備手法及び必要な機能について答申した府中市における地域生活支援拠点等については、整備の進行状況や実際の運用状況を引き続き自立支援協議会において把握・検証していく必要がある。</p> <p>○自立支援協議会は地域課題の抽出及び解決に向けて協議される場として機能していく必要がある。またその機能をより高めていく必要がある。</p>		
検討 テーマ (概 要)	<p>○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施</p> <p>○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証</p> <p>○地域課題の抽出</p>		
取組 経過	<p>【令和4年度の取組】</p> <p>○介護人材不足は、それ自体が大きな地域課題の一つである。また、地域生活支援拠点等が果たすべき役割の一つに「専門的人材の確保・養成機能」があるが、どのように人材が不足しているのか実態を把握しなければ人材育成の量的な目標や質的な方向性を設定できない。このような問題意識から、まずは介護人材不足の実態を調査する手法を検討し、実際に調査し、調査結果を分析した上で府中市における量と質両面での介護人材不足の実態を浮き彫りにするとともに、調査結果を踏まえて府中市における介護人材不足の解消への道筋の提言を目指した。</p> <p>○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証について、今年度は「専門的人材の確保・養成機能」に係る上記調査に注力した。その他の課題や新たに抽出された課題については、次期協議会で検討する必要がある。</p> <p>○地域課題の抽出については特定相談支援機関連絡会における事例検討等を</p>		

	<p>通じて、運営会議に地域課題が集約する流れが定着しつつある。また、昨年度実施された「これからの府中市の障害者福祉における支援体制のありかたを考える懇話会」においても様々な地域課題が参加者から提示された。次期協議会においては、各委員が把握している地域課題も含めて整理し、具体的に検討する必要がある。</p>
<p>検討結果</p>	<p>1 介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施について</p> <p>第2回全体会以降では以下の取組みを行った。</p> <p>(1) ヒアリングの実施</p> <p>すでに実施した全訪問系事業所を対象としたアンケート結果の分析も踏まえ、より踏み込んだ質問で事業所の人材不足の実情を明らかにするべくヒアリングを令和4年10月6日に実施した。</p> <p>ヒアリング対象の事業所として、多種類の訪問系サービスを提供している9事業所を対象に参加を依頼し、6事業所の参加を得た。</p> <p>ヒアリングにおいては、参加事業所から押しなべて人材不足の訴えが出された。ヒアリングで出された声については、別紙「相談・くらしの部会ヒアリング記録」を参照されたい。</p> <p>(2) アンケート及びヒアリングの結果の分析、並びに介護人材不足解消の施策の検討</p> <p>アンケート並びにヒアリングの結果を分析し、現時点で実行可能な介護人材不足解消の施策を検討した。</p> <p>具体的な分析結果、及び検討した施策については、答申書案における「相談・くらしの部会の検討結果について」（以下「部会検討結果」）を参照されたい。</p> <p>2 地域生活支援拠点等の整備状況と運用状況の把握・検証について</p> <p>今期は、地域生活支援拠点等が果たすべき機能の一つである「専門的人材の確保・養成機能」を方向付ける基礎資料として、訪問系の介護職の人材不足に絞った調査の実施に注力した。</p> <p>その他の専門的人材に関する調査や「相談機能」「緊急時の受け入れ・対応機能」「体験の機会・場の提供機能」「地域の体制づくり機能」における整備と運用の状況の把握・検証については、次期以降、優先順位をつけて効率的に検討していく必要がある。</p> <p>3 地域課題の抽出について</p> <p>地域課題の抽出については、特定相談支援機関連絡会における事例検討等を通じて地域課題を運営会議に集約し、その課題の中から地域に存在する共通の課題を抽出する仕組みづくりは進んでいるが、今後もより有効な抽出方法等を随時検討していく。</p>

具体的にどのような地域課題が抽出されたかについては「部会検討結果」を参照されたい。

抽出された地域課題の解決に向けた取組みについては、次期協議会で優先順位をつけて検討していく必要がある。

会議開催状況と内容

	日程	内容
第1回	6月8日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施 ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
第2回	7月15日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（アンケートでの質問項目の検討）
第3回	9月16日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（アンケート結果の分析、及びヒアリング項目の検討）
第4回	10月6日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（訪問系サービス事業所からのヒアリング）
第5回	12月2日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（ヒアリング結果の分析、及び人材不足解消に資する効果的な施策の検討） ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
第6回	12月16日	○相談・くらしの部会としての答申書内容の検討